

ハードウェアマニュアル
I/O

HIDIC
S10 シリーズ

I/Oアダプタモジュール (LWZ820)

2α
シリーズ

対象機種

HIDIC-S10/2		NESP-S25E
HIDIC-S10/2	E	NESP-2 E
HIDIC-S10/2	H	NESP-2 H
HIDIC-S10/2	Hf	NESP-2 Hf

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。
なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問合わせください。

2001年 8月 (第1版) SAJ - 2 - 212 (A)

このマニュアルの一部、または全部を無断で転写したり複写することは、固くお断りいたします。
このマニュアルの内容を、改良のため予告なしに変更することがあります。

安全上のご注意

取り付け、運転、保守・点検の前に必ずこのマニュアルとその他の付属書類をすべて熟読し、正しくご使用ください。機器の知識、安全の情報そして注意事項のすべてについて熟読してご使用ください。また、このマニュアルは最終保守責任者のお手元に必ず届くようにしてください。


このマニュアルでは、安全注意事項のランクを「危険」「注意」として区分してあります。



：取り扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。







：取り扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および物的障害だけの発生が想定される場合。

なお、に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

禁止、強制の絵表示の説明を次に示します。

：禁止（してはいけないこと）を示します。例えば分解禁止の場合はとなります。

：強制（必ずしなければならないこと）を示します。例えば接地の場合はとなります。

危険

非常停止回路、インターロック回路等はプログラマブルコントローラの外部で構成してください。プログラマブルコントローラの故障により機器の破損や事故の恐れがあります。

高電圧のため、感電の恐れがあります。電源を入れたままモジュールまたはケーブルの取外し/取付けを行い誤って電源端子に触れると感電の恐れがあります。また、短絡またはノイズにより装置が破損する恐れがあります。モジュールまたはケーブルの取外し/取付けは、電源を切った状態で行ってください。

端子台の配線は、必ず電源をオフした状態で行ってください。

電源がオンしている状態で配線作業を行うと、感電する恐れがあります。

注意

高温のため、装置が故障する恐れがあります。また、隣接装置からの電磁波妨害により、装置が誤動作する恐れがあります。放熱と電磁波軽減のため、筐体とプログラマブルコントローラおよび各プログラマブルコントローラ間には指定の間隔をあけてください。

実装後、試運転中に筐体内のプログラマブルコントローラ付近の温度を測定し、温度が仕様範囲内にあるか確認してください。指定の間隔がとれない、または温度が高い場合は、冷却ファンを実装し、強制冷却を行ってください。

高温のため、装置が故障する恐れがあります。マウントベースは、垂直面に固定してください。マウントベースを水平面に固定すると放熱が悪くなり、温度上昇により故障または部品の劣化の原因になります。

静電気によりモジュールが破損する恐れがあります。各種設定スイッチの設定、ケーブルの取付け/取外し、コネクタの抜き差し等を行う前に人体の静電気を放電してください。

モジュールが破損する恐れがあります。モジュールの取付けまたは取外しを行うときは、以下の点に注意してください。

- ・モジュールをマウントベースまたは、このI/Oアダプタモジュールのコネクタに差し込む前に、コネクタのピンの曲がりまたは折れているピンがなく一直線上に並んでいるか、またピンにゴミなどが付いていないか確認してください。
- ・モジュールは、マウントベースまたは、このI/Oアダプタモジュールの垂直面に沿って平行移動してください。

モジュールを傾けたまま、コネクタから抜き差しすると、コネクタピンが曲がる恐れがあります。

MODUスイッチの操作は、必ず電源をオフした状態で行ってください。

電源をオンした状態でスイッチを操作すると、システム誤動作の原因となります。

 強制

感電により、死亡または火傷の恐れ、またはノイズによりシステムが誤動作する恐れがあります。ライングラウンド (LG)、フレームグラウンド (FG) とシールド線 (SHD) は以下の接地を行ってください。

- ・マウントベースは筐体から絶縁してください。マウントベースを絶縁するため、マウントベースに付属している絶縁シートを外さないでください。
- ・LGとFGは分けて接地してください。LGは電源ノイズのアース端子であり、FGとSHDはリモートI/O、インタフェースモジュールなどの外部インタフェースの回線ノイズのアース端子です。互いの干渉を防止するため、LGとFGは分離してください。

 強制

内部部品が損傷する恐れがあります。お客様による内部部品交換は行わないでください。故障の場合はモジュールごと交換してください。

制限事項

このI/Oアダプタモジュールと組み合わせて使用するモジュールは、「2.3 I/Oアダプタモジュールのサポート範囲と実装制限」を参照してください。

I/OモジュールをこのI/Oアダプタモジュールに実装する場合は、必ず「表2-5 サポートするS10mini I/Oモジュール」の“下段のみ”、“上段/下段両方”の条件を守って使用してください。

上段/下段の両方にI/Oモジュールを実装する場合は、必ず同じモジュール(同一型式のモジュール)としてください。ただし、「上段/下段両方可」のモジュールは、上段のみ、もしくは下段のみの実装も可能です。割付アドレスは、「4.2 I/Oアダプタモジュール使用時の割付アドレス」を参照してください。

動作中にI/OアダプタモジュールのMODUスイッチの設定を変更しないでください。システムが誤動作する可能性があります。

「4.1 I/Oアダプタモジュールの実装」に示す順番でネジ止めしてください。それ以外の手順ではマウントベースにモジュールを固定できなくなります。

I/Oアダプタモジュールを実装した場合は、必ずI/Oモジュールを実装してください。I/Oモジュールを実装しないでI/Oアダプタモジュールのみの実装はしないでください。

I/Oアダプタモジュールは32点までしか対応していません。

ステーションの点数設定を64点もしくは、128点とした場合、残りの点数は無効となります。

詳細は「4.2 I/Oアダプタモジュール使用時の割付アドレス」を参照してください。

保証・サービス

特別な保証契約がない場合において、この製品の保証は次の通りです。

1. 保証期間と保証範囲

【保証期間】

この製品の保証期間は、ご注文のご指定場所に納入後1年といたします。

【保証範囲】

上記保証期間中に、このマニュアルに従った製品仕様範囲内の正常な使用状態で故障を生じた場合は、その機器の故障部分をお買上げの販売店または（株）日立エンジニアリングサービスにお渡しください。交換または修理を無償で行います。ただし、郵送いただく場合は、郵送料金、梱包費用はご注文主のご負担となります。

次のいずれかに該当する場合は、この保証の対象範囲から除外いたします。

製品仕様範囲外の取り扱い、ならびに使用により故障した場合。

納入品以外の事由により故障した場合。

納入者以外の改造、または修理により故障した場合。

リレーなどの消耗部品の寿命により故障した場合。

上記以外の天災、災害など、納入者側の責任にあらざる事由により故障した場合。

ここでいう保証とは、納入した製品単体の保証を意味します。したがって、当社ではこの製品の運用および故障を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、いかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。また、この保証は日本国内でのみ有効であり、ご注文主に対して行うものです。

2. サービスの範囲

納入した製品の価格には技術者派遣などのサービス費用は含まれていません。次に該当する場合は別個に費用を申し受けます。

取り付け調整指導および試運転立ち会い。

保守点検および調整。

技術指導、技術教育、およびトレーニングスクール。

保証期間後の調査および修理。

保証期間中においても、上記保証範囲外の事由による故障原因の調査。

はじめに

このたびは、I/Oアダプタモジュールをご利用いただきましてありがとうございます。

この「ハードウェアマニュアル I/O I/Oアダプタモジュール」は、I/Oアダプタモジュールの取扱いについて述べたものです。このマニュアルをお読みいただき、正しくご使用いただくようお願いいたします。

この製品は、S10miniのI/OモジュールをS10/2 シリーズのI/Oマウントベースに実装できるようにするための変換モジュール（変換アダプタ）です。

この製品を使用することによりS10miniのI/OモジュールをS10/2 シリーズのI/Oマウントベースに実装することができます。

NESP (Nissan Electronic Sequence Processor) シリーズをご使用のユーザは
下記対応表を参照のうえご使用ください。

【HIDIC-S10 シリーズ】	【NESPシリーズ】
HIDIC-S10/2	NESP-S25E
HIDIC-S10/2 E	NESP-2 E
HIDIC-S10/2 H	NESP-2 H
HIDIC-S10/2 Hf	NESP-2 Hf

目 次

1	ご使用にあたり	1
1.1	使用環境	2
1.2	アース配線	3
2	仕 様	5
2.1	用 途	6
2.2	仕 様	6
2.3	I/Oアダプタモジュールのサポート範囲と実装制限	7
2.4	消費電流による実装制限	9
2.4.1	消費電流の計算方法	9
2.4.2	消費電流の計算例	12
3	各部の名称と機能	13
3.1	各部の名称と機能	14
4	利用の手引き	15
4.1	I/Oアダプタモジュールの実装	16
4.2	I/Oアダプタモジュール使用時の割付アドレス	17
付 録	19
A.1	トラブル調査書	20

目 次

図 3 - 1 I/Oアダプタモジュール概観	14
------------------------------	----

表 目 次

表 1 - 1 使用環境	2
表 2 - 1 I/Oアダプタモジュール仕様	6
表 2 - 2 サポートするマウントベース	7
表 2 - 3 サポートする電源モジュール	7
表 2 - 4 サポートするステーションモジュール	7
表 2 - 5 サポートするS10mini I/Oモジュール	8
表 2 - 6 電源モジュールの出力容量	9
表 2 - 7 ステーションモジュールの消費電流	9
表 2 - 8 S10mini I/Oモジュールの消費電流	10
表 2 - 9 S10シリーズ デジタルI/Oモジュールの消費電流	11
表 2 - 10 S10シリーズ アナログI/Oモジュールの消費電流	11
表 4 - 1 アドレス割付 (FREE設定)	17

1 ご使用にあたり

1 ご使用にあたり

1.1 使用環境

この製品は、下表に示す環境の範囲内で使用してください。

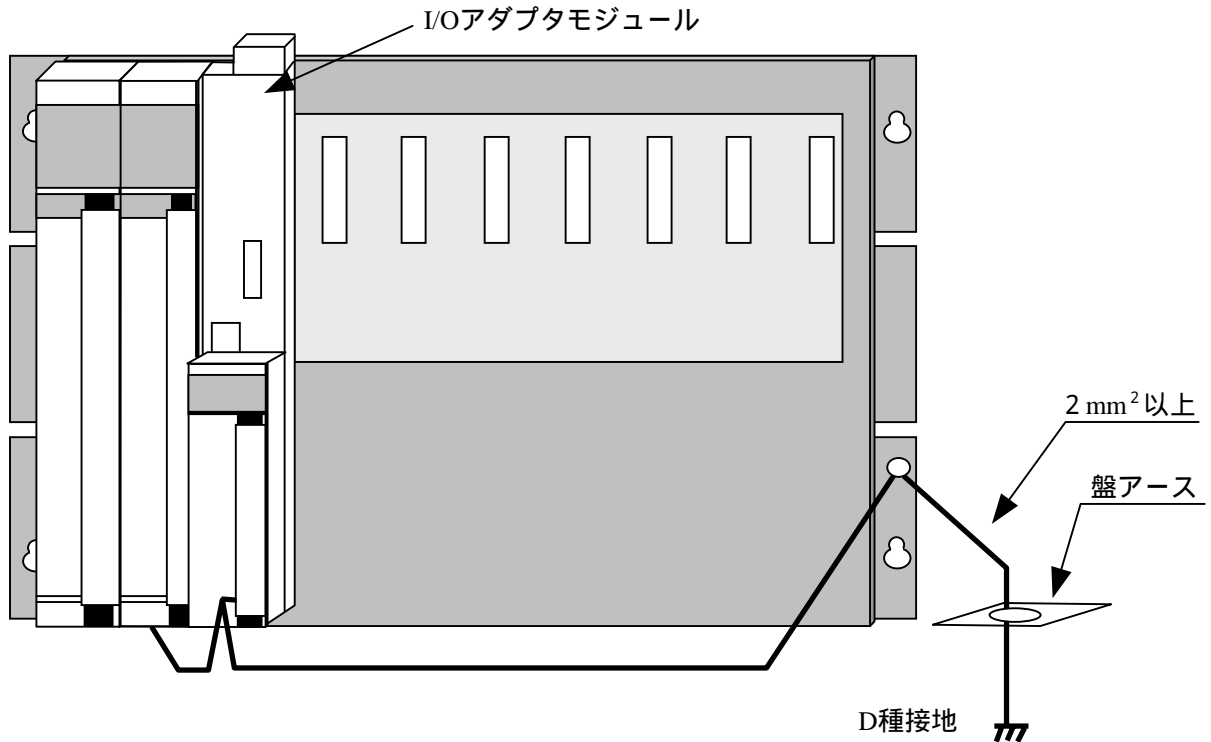
表 1 - 1 使用環境

項 目		仕 様
温度	動作時	0 ~ 55
	保存時	-20 ~ 70
湿度	動作時	30 ~ 90%
	保存時	10 ~ 90%
耐振動		5.8m/s ²
耐衝撃		98m/s ²
使用雰囲気		塵埃0.1mg/m ³ 以下（腐食性ガスがないこと）

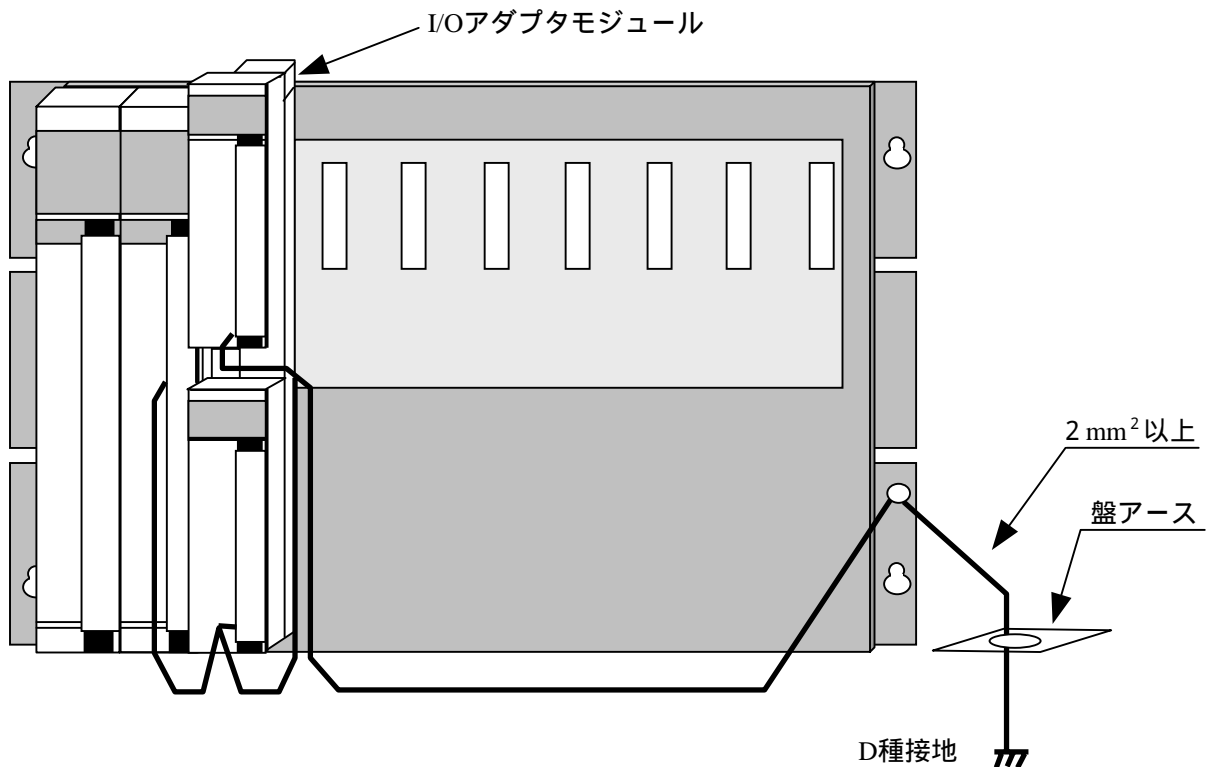
1. 2 アース配線

以下にI/Oアダプタモジュール使用時のアース配線ルートを示します。配線の仕方については、CPUマニュアルまたは、各種I/Oモジュールマニュアルを参照してください。

(1) I/Oアダプタモジュールに下段のみ実装の場合



(2) I/Oアダプタモジュールに上段 / 下段両方実装の場合



2 仕 様

2 仕 様

2.1 用 途

この製品は、S10miniのI/OモジュールをS10/2 シリーズのI/Oマウントベースに実装するための変換モジュール（変換アダプタ）です。

この製品を使用することによりS10miniのI/OモジュールをS10/2 シリーズのI/Oマウントベースに実装できます。また、従来のS10/2 シリーズのI/OモジュールとこのI/Oアダプタモジュールを混在して使用することもできます。

2.2 仕 様

下表に仕様を示します。

表 2 - 1 I/Oアダプタモジュール仕様

項 目	仕 様
モジュール型式	LWZ820
I/Oアダプタモジュール実装枚数	8枚 / ユニット（ただし、8スロットマウントベース使用時）
I/Oモジュール実装枚数	2枚 / スロット（最大）（注）
点数の範囲	16点 / 32点のみ

（注）2枚 / スロットを実装できないI/Oモジュールもあります。I/Oモジュールの実装組み合わせおよびサポートに関しては、「2.3 I/Oアダプタモジュールのサポート範囲と実装制限」を参照してください。

2.3 I/Oアダプタモジュールのサポート範囲と実装制限

この製品は、下表に示すマウントベースおよびI/Oモジュールをサポートします。

表2 - 2 サポートするマウントベース

品 名	型 式
8 スロットI/Oマウントベース	HSC-2008
4 スロットI/Oマウントベース	HSC-2004
2 スロットI/Oマウントベース	HSC-2002

表2 - 3 サポートする電源モジュール

品 名	型 式
AC入力電源	LWV050
AC/DC共用入力電源	LWV060
DC入力電源	LWV150

(注) LWV030と組み合わせて使用することはできません。

表2 - 4 サポートするステーションモジュール

品 名	型 式
E.STATION (リモートI/Oステーション)	LWS010
F.STATION	LWS080
J.STATION	LWS090



注意

このI/Oアダプタモジュールと組み合わせて使用する場合は、必ず上記モジュールとの組み合わせで使用してください。

上記以外での組み合わせにおいては、誤動作する可能性があります。

2 仕 様

表 2 - 5 サポートするS10mini I/Oモジュール

分 類	型 式	下段のみ可	上段 / 下段両方可 (注 3)
入力モジュール	LQX100	-	
	LQX110		-
	LQX200		-
	LQX201		-
	LQX210	-	
	LQX211	-	
	LQX240		-
	LQX250		-
	LQX300		-
出力モジュール	LQY100		-
	LQY140	-	
	LQY160	-	
	LQY200	-	
	LQY300		-
入出力モジュール	LQZ300 (注 1)		-
アナログ入力モジュール	LQA000 (注 2)		-
	LQA100 (注 2)		-
	LQA200 (注 2)		-
アナログ出力モジュール	LQA500 (注 2)		-
	LQA600 (注 2)		-
	LQA610 (注 2)		-
カウンタモジュール	LQC000		

(注 1) このモジュールを使用する場合はステーションをFREE設定とし、LQZ300の割付アドレス設定スイッチ (SW3) を“2”としてください。それ以外では使用しないでください。誤動作する可能性があります。

(注 2) このモジュールを使用する場合はMODEスイッチを“2”としてください。それ以外では使用しないでください。誤動作する可能性があります。

(注 3) 上段 / 下段とは、S10mini I/OモジュールをI/Oアダプタモジュールへ実装する際の実装位置を示します。

詳細は、「3. 1 各部の名称と機能」を参照してください。

注意

I/OモジュールをこのI/Oアダプタモジュールに実装する場合は、必ず上表の“下段のみ”、“上段 / 下段両方”の条件を守って使用してください。

上段 / 下段の両方にI/Oモジュールを実装する場合は、必ず同じモジュール (同一型式のモジュール) としてください。ただし、“上段 / 下段両方可”のモジュールは、上段のみ、もしくは下段のみの実装も可能です。割付アドレスは、「4. 2 I/Oアダプタモジュール使用時の割付アドレス」を参照してください。

2. 4 消費電流による実装制限

2. 4. 1 消費電流の計算方法

S10/2 I/OモジュールおよびI/Oアダプタモジュール+S10mini I/Oモジュールは、I/Oユニットトータルの消費電流によって実装が制限される場合があります。5V、12V各々の消費電流総和が下記条件を満足するようにしてください。

条件1：5Vの消費電流総和 < 5Vの電源出力容量

$$5Vの消費電流総和 = ステーション消費電流(5V) + S10/2 \text{ I/Oモジュール消費電流}(5V)$$

条件2：12Vの消費電流総和 < 12Vの電源出力容量

$$12Vの消費電流総和 = ステーション消費電流(12V) + S10/2 \text{ I/Oモジュール消費電流}(12V) \\ + [I/Oアダプタモジュール + S10mini I/Oモジュール] 消費電流(12V)$$

表2 - 6 電源モジュールの出力容量

モジュール型式	電源容量	
	DC12V	DC5V
LWV050	3.5A	0.8A
LWV060	3.5A	2.0A
LWV150	3.5A	0.8A

表2 - 7 ステーションモジュールの消費電流

モジュール型式	消費電流	
	DC12V	DC5V
LWS010	10mA	150mA
LWS080	50mA	330mA
LWS090	160mA	590mA

表 2 - 8 S10mini I/Oモジュールの消費電流

モジュール型式	I/Oアダプタモジュール実装時の DC12V消費電流
LQX100	34mA
LQX110	54mA
LQX200	39mA
LQX201	39mA
LQX210	54mA
LQX211	83mA
LQX240	54mA
LQX250	54mA
LQX300	74mA
LQY100	382mA
LQY140	196mA
LQY160	157mA
LQY200	59mA
LQY300	128mA
LQZ300	147mA
LQA000	245mA
LQA100	245mA
LQA200	245mA
LQA500	245mA
LQA600	245mA
LQA610	245mA
LQC000	74mA

表 2 - 9 S10シリーズ デジタルI/O
モジュールの消費電流

型 式	消費電流	
	DC12V	DC5V
LWI000	0mA	69mA
LWI050	0mA	36mA
LWI100	0mA	69mA
LWI150	0mA	36mA
LWI160	0mA	36mA
LWI170	0mA	36mA
LWI180	0mA	36mA
LWI500	178mA	20mA
LWI950	0mA	40mA
LWI960	0mA	40mA
LWI970	0mA	40mA
LWO000	704mA	25mA
LWO050	352mA	15mA
LWO060	352mA	15mA
LWO090	176mA	10mA
LWO100	512mA	25mA
LWO110	512mA	25mA
LWO150	256mA	15mA
LWO200	480mA	25mA
LWO500	200mA	20mA
PDG330	50mA	8mA
PDS330	328mA	8mA
PDS360	328mA	8mA

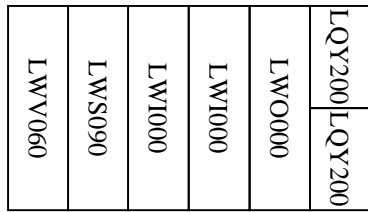
表 2 - 10 S10シリーズ アナログI/O
モジュールの消費電流

型 式	消費電流	
	DC12V	DC5V
PAF300	150mA	40mA
PAF301	150mA	40mA
PAF309	150mA	40mA
PAF320	150mA	40mA
PAF329	150mA	40mA
PAN300B	260mA	40mA
PAN301B	260mA	40mA
PAN309	260mA	40mA
PAN320B	260mA	40mA
PAN329	260mA	40mA
PTF300	40mA	8mA
PTF329	40mA	8mA
LWA000	250mA	45mA
LWA001	250mA	45mA
LWA002	250mA	45mA
LWA003	250mA	45mA
LWA020	400mA	50mA
LWA021	400mA	50mA
LWA022	400mA	50mA
LWA100	300mA	40mA
LWA101	300mA	40mA
LWA110	250mA	40mA

2 仕 様

2. 4. 2 消費電流の計算例

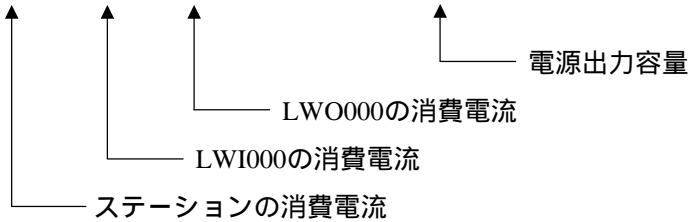
下記の実装構成時の消費電流計算を例として説明します。



I/Oアダプタモジュールの上段 / 下段の両方にLQY200を実装したことを示します。

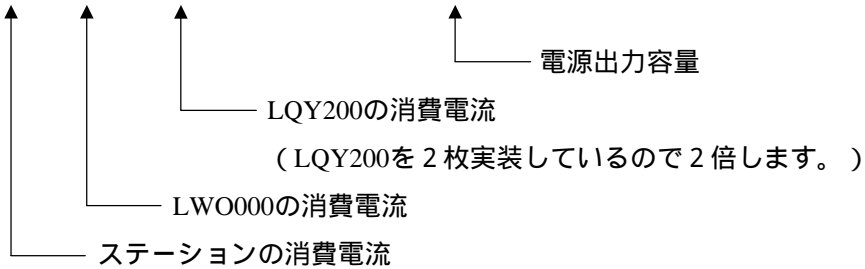
条件1：5Vの消費電流総和

$$\underline{590+69+69+25} = 753\text{mA} < \underline{2.0\text{A}}$$



条件2：12Vの消費電流総和

$$\underline{160+704+59 \times 2} = 982\text{mA} < \underline{3.5\text{A}}$$

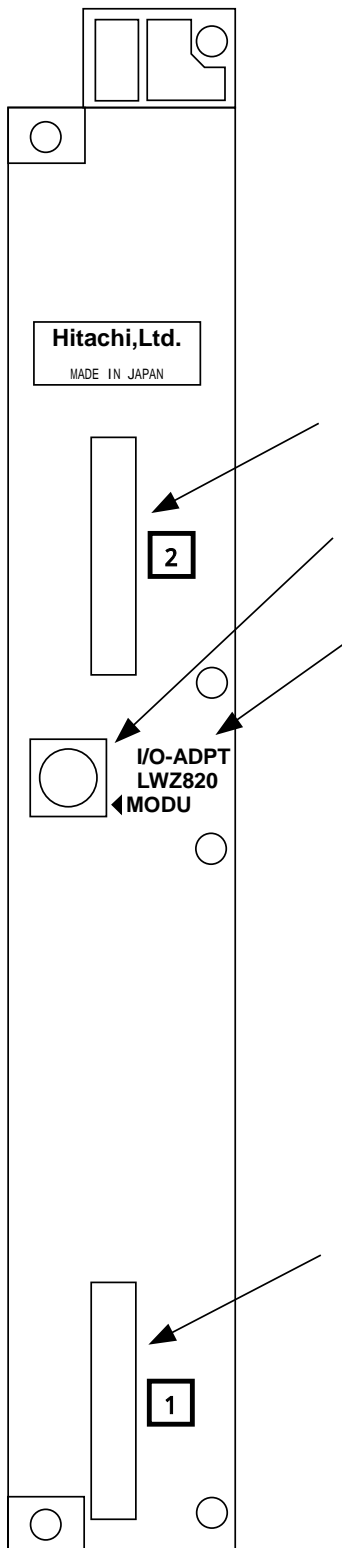


上記の計算により5V側、12V側共に電源容量を超えていないことが確認できます。

(注) このI/OアダプタモジュールとS10、2シリーズのI/Oモジュールを組み合わせで使用する場合は、消費電流の合計が電源容量を超えないことを確認してください。

3 各部の名称と機能

3. 1 各部の名称と機能



S10mini I/Oモジュール実装スロット 1（下段）

S10mini I/Oモジュールの実装スロットです。

組み合わせに対応するモジュールは、「2. 3 I/Oアダプタモジュールのサポート範囲と実装制限」を参照してください。

S10mini I/Oモジュール実装スロット 2（上段）

S10mini I/Oモジュールの実装スロットです。

組み合わせに対応するモジュールは、「2. 3 I/Oアダプタモジュールのサポート範囲と実装制限」を参照してください。

MODUスイッチ

このスイッチで上下段に実装するI/Oモジュールを設定します。設定を以下に示します。

スイッチ設定値	機能
0	下段のみ実装するとき
1	上段 / 下段とも実装するとき
2～9	設定禁止

機能および型式表示

(注) 上段 / 下段とも実装できるI/Oモジュールは限定されます。

詳細は、「2. 3 I/Oアダプタモジュールのサポート範囲と実装制限」を参照してください。



注意

動作中にI/OアダプタモジュールのMODUスイッチの設定を変更しないでください。システムが誤動作する可能性があります。

上段 / 下段の両方に実装するモジュールは、必ず同じモジュール（同一型式のモジュール）としてください。

図 3 - 1 I/Oアダプタモジュール概観

4 利用の手引き

4 利用の手引き

4. 1 I/Oアダプタモジュールの実装

I/Oアダプタモジュールを使用する場合には、下記の手順で実装してください。

手順1：S10/2 シリーズのI/OマウントベースにI/Oアダプタモジュールを実装し、マウントベースにねじ止めしてください。

手順2：I/Oアダプタモジュールの上にS10miniのI/Oモジュールを実装し、I/Oアダプタモジュールにネジ止めしてください。

手順3：MODUスイッチの設定を確認してください。設定が誤っている場合は、正しく設定してください。また、MODUスイッチ設定後にI/O電源を投入してください。

(注1) 必ず、手順1、手順2の順番でネジ止めしてください。

上記以外の手順ではマウントベースにモジュールを固定できなくなります。

(注2) I/Oアダプタモジュールを実装した場合は、必ずI/Oモジュールを実装してください。

I/Oモジュールを実装しないでI/Oアダプタモジュールのみの実装はしないでください。

4. 2 I/Oアダプタモジュール使用時の割付アドレス

(1) MODUスイッチと割付アドレスの関係

I/OアダプタモジュールのMODUスイッチ設定により、I/Oアダプタモジュールに割付られるアドレスを以下に説明します。

MODUスイッチを“0”とした場合

下段スロットのみ選択されます。ステーションの点数設定により下記のようにアドレスが割付られます。

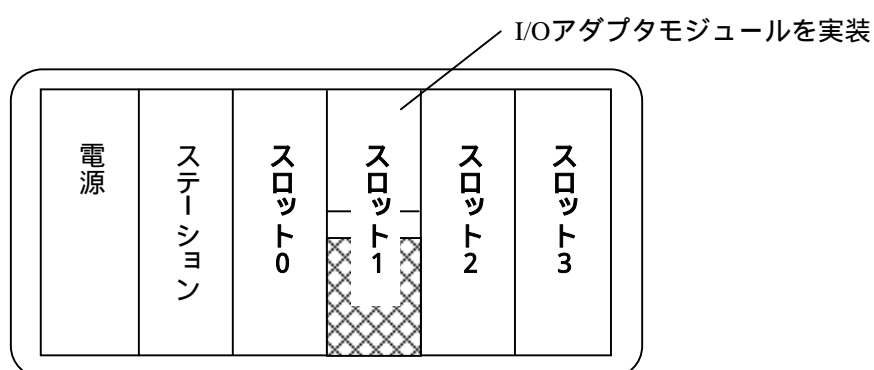


表 4 - 1 アドレス割付 (FREE設定)

ステーション点数設定	スロット0	スロット1	スロット2	スロット3
16点時	X000 ~ X00Fまたは Y000 ~ Y00F	- X010 ~ X01Fまたは Y010 ~ Y01F	X020 ~ X02Fまたは Y020 ~ Y02F	X030 ~ X03Fまたは Y030 ~ Y03F
32点時	X000 ~ X01Fまたは Y000 ~ Y01F	- X020 ~ X03Fまたは Y020 ~ Y03F	X040 ~ X05Fまたは Y040 ~ Y05F	X060 ~ X07Fまたは Y060 ~ Y07F
64点時	X000 ~ X03Fまたは Y000 ~ Y03F	- X040 ~ X05Fまたは Y040 ~ Y05F	X080 ~ X0BFまたは Y080 ~ Y0BF	X0C0 ~ X0FFまたは Y0C0 ~ Y0FF
128点時	X000 ~ X07Fまたは Y000 ~ Y07F	- X080 ~ X09Fまたは Y080 ~ Y09F	X100 ~ X17Fまたは Y100 ~ Y17F	X180 ~ X1FFまたは Y180 ~ Y1FF

(注1) I/Oアダプタモジュールは32点までしか対応していません。

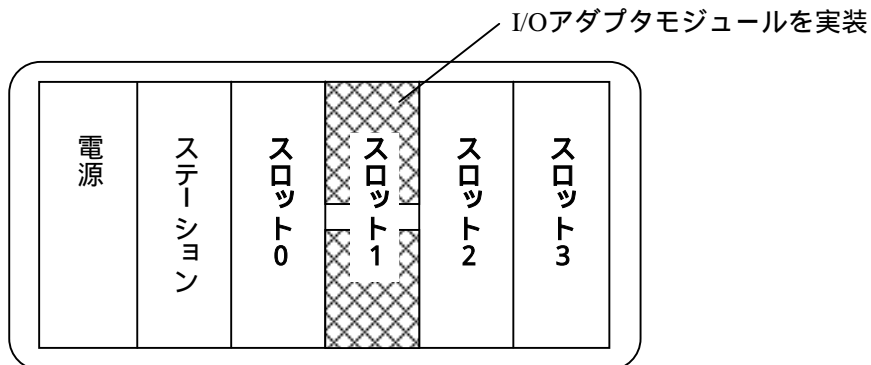
ステーションの点数設定を64点もしくは、128点とした場合、残りの点数は無効となります。

(注2) I/Oモジュールやステーション等の使用方法は各種マニュアルを参照してください。

4 利用の手引き

MODUスイッチを“1”とした場合

上段 / 下段スロットの両方が選択されます。ステーションの点数設定により下記のようにアドレスが割付られます。



アドレス割付表 (FREE設定時)

ステーション点数設定	スロット0	スロット1	スロット2	スロット3
16点時	X000 ~ X00Fまたは Y000 ~ Y00F	- X010 ~ X01Fまたは Y010 ~ Y01F	X020 ~ X02Fまたは Y020 ~ Y02F	X030 ~ X03Fまたは Y030 ~ Y03F
32点時	X000 ~ X01Fまたは Y000 ~ Y01F	X030 ~ X03Fまたは Y030 ~ Y03F X020 ~ X02Fまたは Y020 ~ Y02F	X040 ~ X05Fまたは Y040 ~ Y05F	X060 ~ X07Fまたは Y060 ~ Y07F
64点時	X000 ~ X03Fまたは Y000 ~ Y03F	X050 ~ X05Fまたは Y050 ~ Y05F X040 ~ X04Fまたは Y040 ~ Y04F	X080 ~ X0BFまたは Y080 ~ Y0BF	X0C0 ~ X0FFまた は Y0C0 ~ Y0FF
128点時	X000 ~ X07Fまたは Y000 ~ Y07F	X090 ~ X09Fまたは Y090 ~ Y09F X080 ~ X08Fまたは Y080 ~ Y08F	X100 ~ X17Fまたは Y100 ~ Y17F	X180 ~ X1FFまたは Y180 ~ Y1FF

(注1) I/Oアダプタモジュールは32点までしか対応していません。

ステーションの点数設定を64点もしくは、128点とした場合、残りの点数は無効となります。

(注2) 上下段に実装するモジュールは必ず同一モジュール (同一型式のモジュール) としてください。

(注3) I/Oモジュールやステーション等の使用方法は各種マニュアルを参照してください。

付 録

A. 1 トラブル調査書

貴会社名		担当者		発生日時	
ご連絡先	ご住所				
	TEL				
	FAX				
不具合モジュール型式			CPU型式		
OS Ver.	Rev.	プログラム名 :		Ver.	Rev.
サポートプログラム		プログラム名 :		Ver.	Rev.
不具合現象					
接続負荷	種類				
	型式				
	配線状態				
システム構成およびスイッチ設定					
通信欄					

ご利用者各位

〒101-8010

東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地
株式会社日立製作所

お 願 い

各位にはますますご清栄のことと存じます。

さて、この資料をより良くするために、お気付きの点はどんなことでも結構ですので、
下欄にご記入の上、当社営業担当または当社所員に、お渡しくださいますようお願い申
しあげます。なお、製品開発、サービス、その他についてもご意見を併記して頂ければ
幸甚に存じます。

ご住所 〒	_____
貴会社名 (団体名)	_____
芳名	_____
製品名	
ご意見欄	_____ _____